

ご挨拶

シンガポール日本商工会議所 副会頭
SUMITOMO CORPORATION ASIA & OCEANIA PTE LTD
Director, Chief Administration Officer and Chief Financial Officer
柿原 大輔



シンガポール日本商工会議所の皆様、アジア大洋州住友商事グループの柿原でございます。微力ながら少しでも皆様のお役に立てるよう精一杯努めて参りますので、何卒宜しく申し上げます。

アジア大洋州住友商事グループは、東南アジアおよびオセアニア地域を管轄、シンガポールにその統括機能をおいており、私は、2023年4月にシンガポールに赴任してきました。以来、皆様方には様々な場面でお世話になっております。

私自身は、前職を経て2006年に当社に入社、当社では主に人事系の業務に携わってまいりました。海外での勤務は、ニューヨークに続いて、2度目となります。

前回のニューヨークには2015年11月から2020年3月まで勤務しておりました。当時、米州全体を見ておりましたので、北米・中米・南米における各経済圏や各国の歴史、特色、文化の違いを学びながら、また国毎だけでなく各国内での地域格差も目の当たりにして愕然としながら、どうすればこの地域が更に豊かになってゆくのか、壁を越えて何か融合できるものはないか、我々で何ができるのだろうか、と各国の現地スタッフと、各々が得意でない第二言語同士で真剣に語り合ったことを覚えています。また、足元の米国では、政権がオバマからトランプに変わり政策の方針転換の影響を受け、戸惑いながらも議論を重ねて対応を検討していたことも記憶に残っています。そういった中で、2020年の初めに始まったコロナ禍により、人や物が動けず、ビジネスも進まない中で、自分自身としては道半ばの感じで、しかも、出社が許されずリモートワークだったため、誰にも直接挨拶ができないまま東京に帰国することとなりました。

その後は、皆様方もご承知のとおり、コロナ禍により自分自身の生活も様変わりしましたが、職場でのリモートワークの導入は当たり前、SNSの普及やデジタルの発展・進化により、それまでの距離の概念、が一気に変わり、世界が更に密接な関係へと、

そして、経済圏やビジネスの内容も、どのように様変わりしていくのだろうと思っていた中、シンガポールへの発令をいただきました。

シンガポールに着任して最初に驚いたのが、デジタルの浸透です。デジタル化は、チャンギ空港の入出国をはじめ、各種手続きが全て簡単で判りやすいことは、今後、日本をはじめアジア各国が追随していくものと思われ、シンガポールの徹底した取り組みには感心させられます。(一方で、携帯とカードがなければ何もできないため、携帯が動かない、カードを紛失、という事態には、かなりの打撃を受けるだろうと心配しております。)政策がリード・後押ししていることで、デジタル化の流れは更に加速し、想像もできないスピードで、シンガポールの生活環境が変わっていくのではないかと、シンガポール発のビジネスや製品が数多く生まれるのではないかと期待できる国だと思っています。

また、経済面だけでなく、他民族国家という国際色豊かで、まさにDiversity, Equity & Inclusionを実践している国という点も素直に驚かされています。歴史上の背景に加えて、政策の影響は大きく、上手く皆が交わっていると感じています。今回自分自身が見ている範囲は、東南アジアおよびオセアニア地域のため、シンガポールを不在にしていることも多いですが、機会を捉えてシンガポールの歴史や政治経済、各国との関係など、更に学んでいきたいと思っております。

商工会議所の活動では、貿易・運輸部会、そして基金にも携わらせてもらうこととなります。日本とシンガポール・アジア諸国との経済や文化交流の促進、また当地域における日本企業の発展に、皆様方とともに少しでも貢献していきたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、会員企業の皆様、事務局の皆様、ならびにご家族の皆様の益々のご健勝を祈念してご挨拶とさせていただきます。